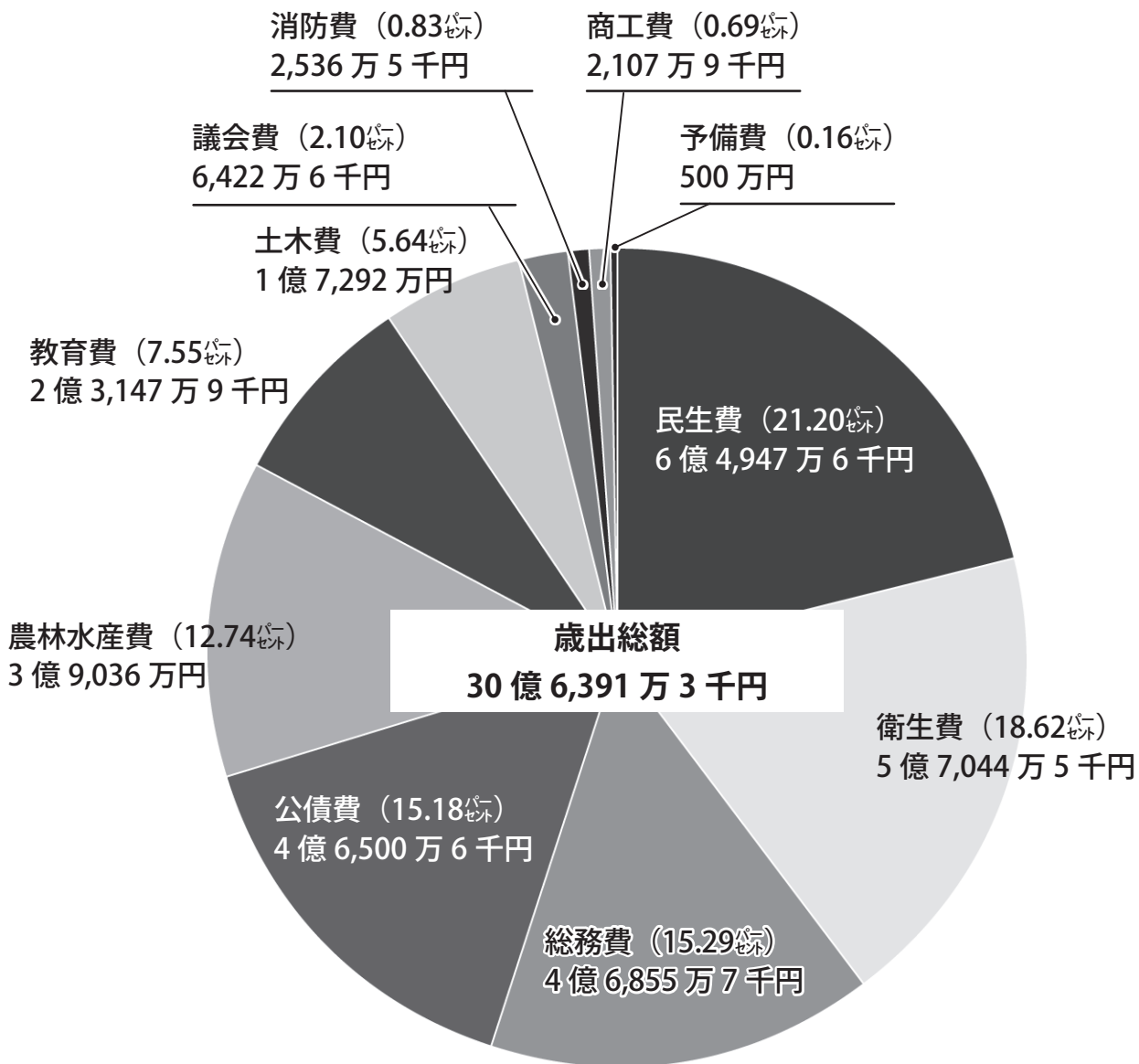


町が支払うお金で一番大きな割合を占めるのは、障がい者や高齢者の自立支援や保育所、福祉事務所の運営などに使われる民生費で、約6億4948万円（全体の21・20％）です。この中で、1歳から3歳までの誕生日を迎える幼児の保護者に対して支援金3万円を給付する『子育て支援事業』を新たに実施します。

次は、予防接種や母子保健、ごみ処理や日野町・日南町・江府町衛生施設組合負担金などに使われる衛生費で、約5億7045万円（全体の18・62％）です。今年度は、ごみ焼却炉の改修経費を計上しています。

次は、西部広域行政管理組合負担金や町営バス運営費、防災や庁舎管理などに使われる総務費が、約4億6856万円（全体の15・29％）で、昨年度から継続するタクシー利用者補助事業のほか、消防用ホースなどを購入する自治会、防災組織に補助を行う『消防施設等整備費補助事業』を新たに始めます。

そして、町の借金の返済金である公債費が、約4億6501万円（全体の15・18％）。昨年度と比較



《特別会計》

◆国民健康保険	【予算額】	3億 9,537万 2千円	(前年度比較 3.56 増減)
◆介護保険	【予算額】	5億 9,055万 4千円	(前年度比較 0.38 増減)
◆後期高齢者医療保険	【予算額】	5,464万 1千円	(前年度比較 0.33 増減)
◆簡易水道	【予算額】	1億 505万 2千円	(前年度比較 6.91 増減)
◆公共下水道事業	【予算額】	1億 411万 7千円	(前年度比較 15.37 増減)
◆農業集落排水事業	【予算額】	7,404万 5千円	(前年度比較 7.03 増減)
◆鳥取県西部町村情報公開 ・個人情報保護審査会	【予算額】	61万 1千円	(平成 25 年度新規)

し、9・48割の減と年々減少しているものの、依然、高い割合を占め、これまでと同様に財政を圧迫しています。

次に、農林振興や林業振興などに使われる農業水産費が、3億9036万円（全体の12・74割）で続きます。昨年度に引き続き、新たに農業を始める人に青年就農給付金を給付する『新規就農支援給付金事業』を実施します。

教育費は約2億3148万円（全体の7・55割）で、保小中一貫教育や学校教育、生涯学習などに使うほか、昨年度に引き続き、保育所や各小中学校に学校図書館司書を配置し、図書館教育を進めます。また、外国語指導助手（ALT）も引き続き配置し、外国語教育の充実に努めます。また、子育て支援おひさまひろば事業で子育て支援の推進を行います。このほか、町民ミュージカル補助を行い、実行委員会を中心に、町ぐるみで公演を盛り上げます。

教育費では、新規事業が目白押し。小学校新入学児童ナップランド贈呈、特別支援学校児童生徒通学支援、学校給食センター調理等の委託、今まで使用中止していた

町文化センターのエレベーターを再稼働します。そして、町制60周年発行を目標に、新しい日野町史の編さんが動き出します。

限られた予算の中、安心安全で住みやすいまちづくりが行える予算となりました。

▼特別会計

町の予算には、特定の事業を実施するため、一般会計とは別に経理する特別会計があります。現在、7つの特別会計があり、当初予算の総額は13億2439万2千円です。

特別会計には収支のバランスを取るため、一般会計からたくさんのお金を繰り出しています。介護保険や国民健康保険、後期高齢者医療保険の給付にかかわる繰出金は高い水準で推移する見込みであり、一般会計を圧迫する大きな要因となっています。

町では、この繰出金を少しでも減らすため、公共下水道や農業集落排水への加入促進、介護予防や健康づくりによる医療費抑制に取り組んでいますので、ご協力ください。

地区の消防設備補助やタクシー利用者補助、子育て支援金など多くの新規事業を計画。安心安全で住みやすいまちづくりのための予算です

総務課 副主幹 荒木 憲男

